

英語が上手いわけではなく、発音や文法も間違えるのに、なぜかアメリカ人と対等に渡り合える日本人がいます。彼らは堂々と発言し、時によっては、カタコトの英語でその場を圧倒的に支配してしまう。いったいなぜ、こんなことができるのでしょうか。

私は英語圏で暮らしたことはなく、大学から渡米しました。アメリカのロースクールを卒業し、現在、ニューヨーク州にある老舗事務所に勤務しています。言葉が商売道具の弁護士は、法律を理解し圧倒されずに交渉できるといった一般レベル以上の英語力が求められます。しかし、私は今でも日本人丸出しの発音で、かなり英語にはコンプレックスを持って生きてきました。

そんな私が本連載でご紹介したいのは、仕事に活かす「ヘタウマ英語」です。それは、今ある自分の英語力で、より個性を発揮し、アメリカでビジネスの相手と対等にわたりあうための英語です。私は、英語は下手でもアメリカでビジネスを堂々とやっている！と声を大にして言いたいのです。

「ヘタウマ」とは？

「ヘタウマ」の概念を理解するために、「カラオケ」を例にあげましょう。音域も狭い、音程も外すのに、その人が歌うとなぜかその場が盛り上がり、みんなが仲良くなってしまおうという人がいます。「数独」の名付け親で、パズル制作会社「ニコリ」を設立した故鍛冶真起氏（マッキーさん）は、まさにその一人でした。マッキーさんは、カラオケでは毎回RCサクセッションの「雨上がりの夜空に」を選曲します。誰もが知っている曲で、イントロが流れただけでも盛り上がりがあります。ところがマッキーさんは、モニターも見ず歌詞も覚えていないので、ほとんどちゃんと歌わない。適当な歌詞を当てて、なんと聞いている人と歌いながらマイクで会話をします。「こんな夜に～♪ お前・・・お前？ お前じゃないよ！」といった具合。毎度のことながら、会場は大爆笑。マッキーさんが歌わないので、周りの人が大合唱するという始末。でも、それが最高に盛り上がって楽しい。これこそが、私のいう「ヘタウマ」のカラオケです。

「ヘタウマ英語」も、まさに同じです。その場の空気をつくり、いつの間にかその場にいる人と一緒に1つの世界を作ってしまうのです。

インタビュー形式で人生の物語を語る手法に、ライフストーリー・インタビュー（Atkinson, 1998）があります。ライフストーリー・インタビューは語る者と語られる者との共同行為とされ、物語を共有することで、そこに「私たち」を生み出し、聴き手と語り手の親密性を高めると言われています。マッキーさんのヘタウマカラオケも、実はこれを体現しています。そして、ヘタウマ英語が目指すのも、言いたいことを一方的に言うことや、単に受け手として聞くだけではなく、それぞれの物語が語り合うことにより「私たちの物語」になるような対話と関係を作り、仕事自体を良い方向に進める英語です。

では、どうやったら、ヘタウマ英語が使いこなせるようになるのでしょうか。

ヘタウマ英語3か条

私がたどり着いたヘタウマ英語は、あくまで、仕事で活かすための英語で、日常会話には通用しないかもしれません。しかし、もし仕事で英語に悩まされている方がいたら、ぜひ、以下を試していただきたいのです。

【ヘタウマ英語3か条】

- その1: 日本語で説明できないことは、英語で説明できない
- その2: 「対話の流れ」を想定した準備をする
- その3: 丁寧すぎる英語は、思い切って捨てる

次回より、上記の3か条について詳しくご紹介をしていきます。お楽しみに！

内藤博久（準会員）

100年の歴史を有する米国の法律事務所Moses & Singer LLPにて労働法、企業法務、知的財産権などを専門に扱うニューヨーク州弁護士（現在、テキサス州の弁護士資格申請中）。幅広いネットワークで米国の大手法律事務所と提携し、日本企業の米国進出を多角的に支援。日本人経営者を対象としたリーガルセンスを磨くセミナーを実施し、YouTubeの配信なども行っている。



- Email: hnaito@mosessinger.com
- [YouTubeチャンネル 久ラジ](#)
- [US LEGAL AID FOR LEADERS](#)
- [個人ブログ](#)

Houston Walker

■Jan. 27-30 | [Simone Biles International Invitational @ George R. Brown Conventional center](#)

アメリカが誇る体操選手Simone Bilesの活躍は一部競技の棄権も含めて昨年の東京オリンピックでも話題になりましたね。そんな彼女が主催する体操の競技会がヒューストンで開催されます。

■Jan. 29, Feb. 5-6 | [Monster Jam @ NRG Center](#)

このコーナーでも何度か紹介していますが、またまたMonster Jamがやってきます。前回見逃したという方は今回こそ、アメリカらしい迫力のカーアクションをお楽しみください。

■Feb. 4, 6, 8, 10, 12-13 | [Magic Flute @ Brown Theater](#)

モーツァルトの名作オペラ「魔笛」。名前は聞いたことあるけど、実はどんなお話か知らないという人も多いのではないのでしょうか？ ヒューストングランドオペラが公演するこの機会に作品世界に触れてみてはいかがでしょうか。

■Feb. 9-12 | [Houston RV Show @ NRG Center](#)

アメリカでキャンピングカーと言えばキャンピングカーを用いたオートキャンプのイメージがありますよね。アメリカにいるうちに一度キャンピングカーを経験してみたいという人も多いと思いますが、そんな方におすすめのイベントです。メーカー各社の最新モデルも展示されますので、この機会にキャンピングカーがどんなものか、見てみてはいかがでしょうか。

■Feb. 18- Mar. 1 | [Mardi Gras! Galveston @ 2302 Strand St Galveston](#)

復活祭（イースター）の40日前にあるマルディ・グラのお祭りはニューオーリンズが有名ですが、ガルベストンも負けてはいません。3/1の「肥沃な火曜日」までパレードなど様々な行事が行われます。

■Feb. 24, 26, 27, Mar. 4-6 | [Jewels @ Wortham Theater Center](#)

エメラルド、ルビー、ダイヤモンドの3幕からなるバレエです。それぞれの宝石について異なる作曲家の音楽が採用されており、宝石ごとの個性を楽しむことができます。

内容は記事執筆時点の情報に基づいています。変更になる場合もありますので、お出かけ前に各自で最新の情報を主催者サイト等でご確認ください。

編集後記

明けましておめでとうございます。皆様にとって恵みに満ちた一年となるようにお祈りしております。さて、物事は初めが大事と申しますが、皆様は今年何を考え、何に目を向けて前進しようとしていらっしゃるでしょうか？

コロナ禍で人々は不便、不安、不満を抱えて生きています。皆様も何等かのダメージやブッシュバックを経験されたと察します。しかし同時に、このピンチをチャンスに変えた人達もおられます。彼らの鍵は何だったのでしょうか？それは問題を違う視点から見て、その中に希望あるチャンスを見出したところにあるのではないのでしょうか？

Every cloud has a silver liningという慣用句があります。どんよりとした曇り空の中で見つけた光の筋を見えないが重要な服の裏地とかけ、こういう風に纏めたのでしょう。どんな困難な状況や悪い事にも何らかの良い事がある、という意味です。時に、雲は発生しますが、やがては消え去ります。一時的な物です。しかし、太陽の光は、見えてなくても暗雲の向こう側に必ずあり、消え去る事はありません。私達の人生にも暗雲の向こう側に、キラリと希望の光がさしているのではないのでしょうか？

続けて私達は今の状況に対応しつつ歩むしかありません。この中で、マイナスな暗雲ばかりに目をやるのではなく、この状況下で見出せる希望に目を向けてみてはいかがでしょうか？視点を変える事で問題の向こう側にある希望の光が見える一年となりますように。

（編集委員：西 豊弘）

ガルフストリームは毎月15日発行です。

編集委員および投稿募集中！

問い合わせ先: sansuikai@jbahouston.org

ガルフストリームは、ホームページでも閲覧可能です。

<https://www.jbahoustongulfstream.com/>

発行：ヒューストン日本商工会

発行責任者：川上篤樹

編集委員長：稲田徳弘

構成・編集：ガルフストリーム編集委員一同